

2 府市場の強みと弱み

(1) 立地条件

- 高速道路や鉄道による物流に便利である【強み】
 - ・ 高速道路や鉄道による交通網の結節点に近く、全国からの集荷や遠方への出荷に有利です。
- 大消費地にある【強み】
 - ・ 大消費地（開設区域人口約 420 万人）を抱え、取引量の確保に有利です。
- 北大阪流通業務地区（※）内にある【強み】
 - ・ 周辺に集積した物流機能（運送会社の拠点、JR 貨物駅など）が利用できます。
 - ・ 配送施設や加工施設の近隣への立地が比較的容易です。
- 公共交通機関でのアクセスが不便である【弱み】
 - ・ 一般消費者を集める行事を場内で行う際も、自家用車の利用が中心になります。
- 西日本最大の大阪市中心卸売市場本場が近くにある【弱み】
 - ・ 産地からの営業活動は、大阪市本場が中心となっています。
 - ・ 府民や消費者に府市場があまり知られていません。

開設区域人口の推移(国勢調査による)

	平成12年	平成17年	平成22年
豊能地域	658,048	652,199	657,104
三島地域	1,081,205	1,087,733	1,100,634
北河内地域	1,202,287	1,186,521	1,185,935
その他(注)	1,221,490	1,224,934	1,227,665
計	4,163,030	4,151,387	4,171,338

(注)大阪市(東淀川、旭、城東、淀川、鶴見)、東大阪市

大阪府人口の年齢構成の推移

年齢区分	平成12年	平成17年	平成22年
～14歳	14.2%	13.7%	13.3%
15歳～64歳	70.7%	67.1%	64.4%
65歳～	14.9%	18.5%	22.4%

(注)国勢調査による

※ 北大阪流通業務地区について

流通業務地区は、幹線道路、鉄道等の交通施設の整備の状況に照らして、流通業務市街地として整備することが適当であると認められる区域について、「流通業務市街地の整備に関する法律（流通業務市街地整備法）」に基づき、都市計画に定められるもので、原則として、流通業務施設及び流通業務に関連する施設のみが地区内に立地できるとされています。

北大阪流通業務地区では、地区内に府市場、加工食品卸売場、北大阪トラックターミナル、各種流通倉庫などが立地しているほか、周辺の準工業地域にも、JR の貨物駅、運送会社の拠点施設、量販店やメーカーの配送センターなどの流通業務施設が多数立地しています。

市場全景



府市場の位置図



(2) 施設・設備

- 未利用地、低利用施設【強み】【弱み】
 - ・ 他市場に比べ敷地が広く、活用可能な未利用地も残っています。
 - ・ 関連業者の撤退などにより、管理棟、金融棟など低利用施設が増えています。
 - ・ 取扱量の減少、仲卸業者数の減少などにより、空店舗や空事務所が増えています。
 - ・ 運送会社の低温配送センターが市場内に立地し、取引拡大に結びついています。

- 施設、設備の老朽化・陳腐化【弱み】
 - ・ ほとんどの施設が開設当初のままです。
 - ・ 今後、高圧電気設備などの大規模な更新工事が必要です。
 - ・ 冷蔵庫棟は、階ごとに分けた運用ができず、運用効率が悪くなっています。
 - ・ 配送車両の大型化に対応できていない施設があります。

- コールドチェーンの切れ目【弱み】
 - ・ 青果物の露天の荷捌きなどもあり、産地や小売の期待に応えきれいていません。

- 施設の目的外利用の多さ【弱み】
 - ・ 場内道路上の荷捌きが常態化しています。
 - ・ 買出人駐車場や場内道路上での長時間駐車が目立ちます。
 - ・ 駐車場に置きっぱなしで倉庫などに利用されている廃車が目立ちます。

- 施設の汚れ【弱み】
 - ・ 清掃や維持補修の行き届いていない部分があります。
 - ・ トイレが老朽化しており、抜本的な改修が必要です。
 - ・ 空缶や吸がら、廃包装資材のポイ捨て、トイレの落書きなど利用マナーの悪さが目につきます。
 - ・ 市場周辺にカラスなどが多く、一部は、売場にも入ってきています。

近隣市場の敷地面積と合計取扱数量

	大阪府中央 卸売市場	京都市中央 卸売市場 第一市場	大阪市中央 卸売市場 本場	大阪市中央 卸売市場 東部市場	神戸市中央 卸売市場 本場	奈良県中央 卸売市場
敷地面積(㎡)	201,351	147,192	179,930	105,615	107,867	152,225
平成22年度合計取扱数量(トン)	287,252	321,640	608,747	272,026	185,906	162,484

(注)全国中央卸売市場協会の資料による。

主な施設の使用状況(平成23年12月末現在)

	卸売場	仲卸売場	卸売棟事務所	青果棟・水産棟 関連商品売場	管理棟 事務所 関連商品売場	金融棟 事務所 関連商品売場
施設面積(㎡)	19,131	11,108	9,665	1,272	766	514
使用率	99.70%	92.70%	69.90%	95.10%	27.27%	34.40%

(3) 取引の状況

- 全国10位の大規模市場【強み】
 - ・ 全国的傾向で減少が続いているものの、平成22年においても、28万トンを超える取扱数量と1千億円近い取扱金額を有する全国10位の大規模市場です。
- 量販店中心の市場【強み】【弱み】
 - ・ 実需者（一般小売業者、量販店、給食業者、加工業者、飲食業者）向けの搬出割合で見ると、量販店が3分の2以上を占め、大阪市本場などに比べて高くなっています。
 - ・ 量販店中心のため、取引は中程度の品物が主で、高級品は少なくなっています。
- せり割合の低下【弱み】
 - ・ 全国的な傾向ですが、量販店対応などのため、市場本来のせり又は入札による取引の割合が低くなっています。
- 遠方への搬出も少なくない【強み】
 - ・ 三島、豊能、北河内など府市場設置に当たって想定された供給圏（開設区域）外の遠方への搬出が、青果で45%、水産物で60%を上回っています。
- 近郊売場での取引が低調【弱み】
 - ・ 近郊売場でもせりが少なくなり、売買参加者の数も減ってきています。
 - ・ 産地の規模や位置関係で止むを得ない面もありますが、大阪産（もん）の扱いは限られています。

全国中央卸売市場の取扱高（平成22年、青果＋水産物）【各項目上位15市場】

ア 取扱数量

順位	市場名	数量(トン)
1	東京都中央卸売市場 大田市場	884,669
2	東京都中央卸売市場 築地市場	844,267
3	大阪市中央卸売市場 本場	602,690
4	札幌市中央卸売市場	424,624
5	横浜市中央卸売市場 本場	418,602
6	名古屋市中央卸売市場 本場	363,451
7	名古屋市中央卸売市場 北部市場	351,448
8	京都市中央卸売市場 第一市場	321,640
9	仙台市中央卸売市場 本場	300,205
10	大阪府中央卸売市場	287,252
11	大阪市中央卸売市場 東部市場	261,221
12	福岡市中央卸売市場 青果市場	249,580
13	東京都中央卸売市場 澁根市場	239,626
14	岐阜市中央卸売市場	226,478
15	神戸市中央卸売市場 本場	185,906

イ 取扱金額

順位	市場名	金額(千円)
1	東京都中央卸売市場 築地市場	521,109,189
2	東京都中央卸売市場 大田市場	257,436,705
3	大阪市中央卸売市場 本場	243,117,234
4	名古屋市中央卸売市場 本場	164,952,788
5	札幌市中央卸売市場	159,142,674
6	横浜市中央卸売市場 本場	139,511,307
7	仙台市中央卸売市場 本場	118,988,666
8	京都市中央卸売市場 第一市場	112,954,311
9	名古屋市中央卸売市場 北部市場	101,824,119
10	大阪府中央卸売市場	99,450,967
11	大阪市中央卸売市場 東部市場	97,754,599
12	神戸市中央卸売市場 本場	84,398,914
13	金沢市中央卸売市場	68,556,207
14	広島市中央卸売市場 中央市場	67,912,793
15	新潟市中央卸売市場	64,540,004

近隣市場における搬出先業態別の搬出数量の割合

		一般小売業者	スーパー	給食業者	加工業者	飲食業者	その他 (他市場等)	スーパー その他を除き集計
大阪府中央卸売市場	野菜	19.1%	59.7%	3.7%	5.9%	1.7%	10.0%	66.3%
	果実	24.5%	62.1%	2.4%	0.1%	0.5%	10.3%	69.2%
	生鮮水産物	19.2%	57.9%	1.7%	2.9%	8.5%	9.8%	64.2%
	加工水産物	13.5%	58.2%	5.2%	0.3%	0.9%	22.0%	74.6%
大阪市中央卸売市場本場	野菜	24%	50%	7%	5%	3%	10%	56%
	果実	16%	31%	1%	1%	2%	50%	62%
	生鮮水産物	33%	43%	0%	4%	7%	13%	49%
	加工水産物	13%	34%	3%	2%	2%	46%	62%
大阪市中央卸売市場東部市場	野菜	26%	52%	3%	7%	2%	10%	58%
	果実	24%	24%	0%	45%	0%	7%	26%
	生鮮水産物	18%	41%	1%	17%	6%	17%	49%
	加工水産物	9%	38%	7%	8%	2%	36%	59%
京都市中央卸売市場第一市場	野菜	14.9%	44.8%	1.3%	10.8%	4.5%	23.7%	51.9%
	果実	33.4%	53.4%	0.6%	1.2%	1.6%	9.7%	59.1%
	生鮮水産物	10.0%	61.2%	1.9%	2.4%	0.3%	7.5%	66.2%
	加工水産物	19.6%	59.4%	1.0%	9.5%	3.0%	7.5%	64.2%
神戸市中央卸売市場本場	野菜	15.5%	50.7%	1.9%	9.9%	5.2%	16.9%	61.0%
	果実	20.6%	42.1%	0.2%	0.7%	1.1%	35.3%	65.1%
	生鮮水産物	31.7%	31.9%	1.1%	4.9%	11.5%	18.7%	39.2%
	加工水産物	8.2%	13.9%	1.1%	34.3%	0.7%	41.9%	23.9%

(注) 各市場の直近の調査による(大阪府、大阪市、京都市は平成23年、神戸市は平成20年の調査)

開設区域外への搬出状況(府市場流通実態調査(平成23年6月4日実施)による)

	開設区域外	開設区域内
青果	45.30%	54.70%
水産物	61.20%	38.80%

(注) 開設区域: 茨木市、高槻市、吹田市、摂津市、島本町、豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町、枚方市、寝屋川市、門真市、守口市、交野市、四條畷市、大東市、東大阪市、大阪市の一部(淀川区、東淀川区、旭区、城東区、鶴見区)

青果近郊売場 売買参加者数の推移

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売買参加者数	149	149	145	137	133	126	120

(注) 各年度末現在の数を示す(平成23年度は平成24年1月31日現在)。

(4) 場内業者等の状況

ア 卸売業者

- ・ 4社全てが大阪市本場の卸売業者の支社又は子会社です。【強み】【弱み】
- ・ 開設時の経緯から、青果部の卸会社が近郊売場を設置しています。【強み】
- ・ ニーズ（小売・仲卸の要望）に合わせ産地から集荷する体制や産地との協議・情報収集が不足しているとの指摘があります。【弱み】
- ・ 品質、鮮度、味などの商品管理が不足しているとの指摘があります。【弱み】

イ 仲卸業者

- ・ 加工部門の強化や開設区域外での小売、産地開発を含む直接集荷の拡充など川上、川下を含めた積極的な事業展開をする大規模な業者があります。【強み】
- ・ 専門性を生かし、他市場の卸や仲卸に品物を供給する業者があります。【強み】
- ・ 年間売上金額5億円未満の小規模業者が過半数を占め、量販店への対応（加工、袋詰め、休場日出荷等）が負担になっています。【弱み】
- ・ 約半数が赤字経営で、後継者難もあり、廃業も少なくありません。【弱み】
- ・ 卸と連携して量販店の要望に対応する体制が不足しているとの指摘があります。【弱み】
- ・ 品質、鮮度、味などの商品管理が不足していると指摘があります。【弱み】

ウ 関連事業者

- ・ 都市銀行の窓口がありません。【弱み】
- ・ 市場PRになるような飲食店がありません。【弱み】

エ 開設者

- ・ 市場会計が赤字続きで、管理経費の充実や大規模な施設更新がほとんどできていません。【弱み】
- ・ 施設改修などの計画から実行までに時間がかかることが多いです。【弱み】